

【足立区地域自立支援協議会 精神医療部会】会議議事録

会 議 名	令和7年度 足立区地域自立支援協議会 第2回精神医療部会					
事 務 局	衛生部 足立保健所 中央本町地域・保健総合支援課					
開催年月日	令和7年12月19日（金）					
開催時間	午後2時～午後3時30分					
開催場所	足立保健所2階会議室					
委 員 出 席 者	部会長	森澤 美穂	委 員	樺沢 えり	委 員	山本 武史
	委 員	西村 健司	委 員	鈴木 こずえ	委 員	増田 和貴
	委 員	片桐 愛子	委 員	吉村 あいこ	委 員	秦 英一郎
	委 員	久下 えみ子	委 員	松岡 優子		
	委 員	小杉 信之	委 員	内田 聖子		
委 員 欠 席 者	委 員	石黒 雅浩	委 員	初鹿野 学		
会 議 次 第	<p>1 開会挨拶</p> <p>2 「精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築」に係る令和7年度のワーキンググループ活動状況について</p> <p>3 「精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築」に係るワーキンググループ活動の意見等について</p> <p>4 事務連絡</p> <p>来年度の自立支援協議会精神医療部会の予定</p> <p>時期：第1回 令和8年 7月頃</p> <p>第2回 令和8年 12月頃</p> <p>場所：足立保健所 会議室</p>					
資 料	<p>【配布資料】</p> <p>資料1</p> <p>「精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築」に係るワーキンググループ活動状況</p> <p>【当日回覧資料】</p> <p>視察先のパンフレット等</p>					
そ の 他	<p>司会：本間 一陽（中央本町地域・保健総合支援課 精神保健係長）</p> <p>説明：田中 恭子（中央本町地域・保健総合支援課 精神保健担当係長）</p>					

令和7年度第2回精神医療部会
足立保健所2階会議室

【事務局 本間】

それでは、お時間となりましたので、足立区地域自立支援協議会第2回精神医療部会を開始いたします。本日は、ご出席いただき誠にありがとうございます。

本日、進行を務めさせていただきます、中央本町地域・保健総合支援課の精神保健係長の本間です。よろしくお願いいたします。協議に先立ちまして、配布資料の確認をさせていただきます。

次第と資料1、ワーキンググループの活動状況です。足りない方がいらっしゃいましたら手を挙げてください。

次に、この精神医療部会は、会議内容及び発言者名など後日議事録を公開いたしますので、議事録作成のため、録音をしております。

後日、本日ご発言をいただいた委員の皆様には、議事録の原稿をお送りして内容の確認をさせていただきますので、予めご了承ください。

また、公開・傍聴席を設けておりますことを、ご了承ください。事務連絡は以上となります。それでは令和7年度足立区地域自立支援協議会 第2回精神医療部会を開会いたします。

始めに開会の挨拶です。

足立保健所長の増田よりご挨拶いたします。

【増田委員】

皆様こんにちは。本日は年末の大変お忙しい中、足立区地域自立支援協議会精神医療部会にご参加くださり、誠にありがとうございます。また、日頃より、保健所事業にご理解ご協力賜り感謝申し上げます。さて、先日、国は、にも包括の成果目標案として、退院後の地域における平均生活日数や再入院率など

の指標を示しました。本日の部会では、にも包括ワーキンググループの活動状況について報告させていただく予定としております。国が示しました成果目標案を踏まえつつ、当事者の方々が地域において自分らしく生活できるよう、足立区版にも包括を皆様とともに、作り上げていきたいと考えております。

本日、委員の皆様から貴重なご意見をいただけたら幸いに存じます。

どうぞよろしく願いいたします。

【事務局 本間】

ありがとうございます。本日の出席者につきましては次第の裏面に席次表をつけておりますので、時間の都合上、ご紹介はいたしません。なお、石黒委員と初鹿野委員については欠席のご連絡をいただいております。松岡委員はまだいらしていないようです。

それでは次第の2番から議事になります。ここからは森澤部会長、議事進行をお願いいたします。

【森澤部会長】

それでは、ここから議事進行をさせていただきます森澤と申します。よろしくお願いいたします。

それでは次第の2番、精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に関わるワーキンググループの活動状況について、中央本町地域・保健総合支援課田中係長から説明をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

【事務局 田中】

中央本町地域・保健総合支援課、精神保健担当の田中と申します。どうぞよろしくお願いいたします。資料1をご覧ください。今年度の精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に係る令和7年度ワーキンググループの活動状況についてご説明いたし

ます。

令和7年度のテーマです。第1回の精神医療部会でもご報告いたしましたが、今年度は、令和5年度、令和6年度にかけて行った長期入院者の調査結果を基に、退院促進に向けて必要な支援を事業化に向けて方向性を固めていく、としてスタートしました。

長期入院者の調査につきましては、昨年度の精神医療部会で報告いたしましたが、「長期入院者の実態調査」を目的に、区内の5病院にご協力いただきまして、令和5年度に書面調査、令和6年度に対面調査を行っております。書面調査は入院者の人数や期間、入院理由等を伺いまして、対面調査は、1年以上入院されている患者さんのもとに、ワーキングのメンバーがご本人の意向等を伺いに行っております。

2 参加団体につきましては、書面のとおりです。ご覧ください。

3 活動状況です。

第2回のワーキンググループの活動状況まで、第1回の精神医療部会でご報告しております。退院促進に向けてどこから手を付けていこうか、他区の視察を踏まえてメンバーで話しあい、今年度はピアサポーターの活動強化をしていくことに決まりました。

第3回以降につきましても、他区の視察を踏まえて活動強化についての検討を引き続き行いました。第3回のワーキングでは、第1回精神医療部会でいただいた意見を共有し、各メンバーからピアサポーター活動強化につきまして、どこを目指すのか、活動内容はどのようなことが出来ると良いのか、そのためにはどうしたら良いのか等それぞれ意見を持ち寄っております。

第4回には、現在のふれどりいさんのピア

サポーター活動についてご報告いただき、現在も毎月の定例会や語ろう会、体験発表等、様々活動されていますが、更なる発展のための意見をメンバーで意見交換しました。

第5回には、ピアサポーターの活動強化で目指す目標や、次年度に向けて何をするか等を決めております。

次に、他区の視察状況については資料裏面4番をご覧ください。

現地に視察に伺ったのは、江戸川区役所、北区役所、江戸川区の地域活動支援センターこまつがわ、豊島区の地域生活支援センターこかげです。

文書にて回答をいただいたのが、世田谷区役所、豊島区役所です。

主に、区役所には予算規模や委託先について、実際に運営する事業所には、ピアサポーターの募集方法、養成方法や活動内容、そのための職員体制、課題等を伺っております。

視察先の資料は回覧いたしますのでご覧いただければと思います。

5 ワーキンググループで決めた今後の方向性です。

(1) ピアサポーターの活動について、更なる活性化を目指すため、足立区の現状にあったピアサポーターの養成や支援事業を検討していく、としました。

第1回の精神医療部会でも報告いたしましたが、ピアサポーターの養成には長い時間がかかることが分かりましたし、ピアサポーターとその支援者のフォロー体制も重要です。養成方法や回数、その内容につきましても来年度検討していきたいと思っております。その際、現在活動してくださっているピアサポーターの皆さんにもご意見をいただきながら進めて

いきたいと考えております。

次に、ピアサポーターの活性化により目指す目標ですが、「ピアサポーターの活動を広げ、長期入院者の退院促進のための支援から、地域での生活支援まで切れ目なく行うことで、精神障がいのある人が地域の担い手として参画し、精神障がいに対しての地域社会の理解を得て、誰もが生きやすく、安心して暮らせる地域共生社会の実現を目指す。」としました。

参考ですが、ピアサポーターとは何を指すのか、色々な捉え方がございますので、メンバー間で齟齬が無いように、ワーキンググループでの共通事項としての分類を定義しました。ピアサポーターの中には生業としてのピアサポータースタッフとして事業所等で働く方もいらっしゃいますし、ピアサポーターとは別に、障がい者雇用で雇用されている方もいらっしゃいます。ピアサポーターを養成する中で、ピアサポータースタッフになれる方が出来れば望ましいことですが、ワーキングでは、この図で言うと、色がついている部分のピアサポーターをまず育成しようと考えております。

6 来年度のワーキンググループについてです。

来年度はまず、ピアサポーターの担い手を増やすために、ピアサポーターの裾野を広げて行こうと考えております。そのためにどのように区民の方々に周知するか、また、ピアサポーターとして定着してもらえるために養成講座の内容、回数等、企画をメンバー間で練り、実行していきたいと考えております。以上になります。

【森澤部会長】

それでは今のご報告に関して何か委員の皆

さんからご質問等がありますでしょうか。ワーキンググループを5回通しているいろいろなお話し合いをしていく中で、今年度はピアサポーターの活動強化について検討を重ねてまいりました。

今年度は、こちらの会議室から飛び出して、実地でいろいろなところを回って、今、回覧資料でも回っているかと思いますが、いろいろな資料ですとか、実際の声を伺うことを行ってまいりました。

何かその点に関しても皆さんからご質問あれば田中係長が答えてくださるんですけど、いかがでしょうか。

【小杉委員】

成仁病院の小杉です。

ご報告ありがとうございます。せっかくふれんどりいさんのピアサポーターさんがいらっしゃるの、足立区のピアサポーターサポートの現状について少し教えていただけるとありがたいなと思いますがいかがでしょうか。

【西村委員】

ピアサポーターの西村と申します。

現状のところで言うと、まず、率直に、人数が少ないという問題があります。ふれんどりいから表に出る活動がしにくいということがございます。実際に今行っている活動についても、ふれんどりい以外で、精神障がいの方を4～5名集めて話を伺うという活動がほぼ大半で、言いたいことを言う「語ろう会」という会に、多くても10人ぐらい。そこにピアサポーターが3～4人集まっています。

ふれんどりいの施設の中での活動ばかりがメインになっております。例えば病院などへの方法として、長期入院者の方と接遇するようなことも考えますんですけども。なかなかまだそこまではという声が上がっている。来年の2月にピアサポーター養成講座がありますので、そこで人数が増えれば変わってく

るのでしょうけれども、そこまではしばらくは辛抱だなあと。人数の問題は仕方がないとして、意識の問題としても、ふれんどりいの中だけで活動していると、ピアサポーターってこれでいいのかな。何かぼやぼやした感情があるというような意見も結構出ていまして。本来のピアサポーターはやはり、ふれんどりいの中での活動もそうですけど、ふれんどりいから飛び出して、例えば長期入院者の方や、デイケアの方々と接触するのが本来の仕事だと私は思っているの、これからそれを期待したいと思いますし、そのように準備したいとも思います。

【小杉委員】

ありがとうございます。

ピアサポーターさんは、今まで東京足立病院さんですとか、大内病院さんに長期入院の方への訪問などもされていたのが、コロナを機に止まってしまったみたいところが残念だなと思っています。以前の活動がまた戻ってくるといいのかなと思いますし、今の精神科医療の分野ですと、入院というより地域支援に主眼を置かれておりますので、デイケアの支援などもすごくいいなと思ひまして、現実になるといいなと思ひながらお話を聞かせていただきました。

【森澤部会長】

今の西村委員の補足の説明では、今、毎月1回、定例会をふれんどりいで行っておりまして、以前ふれんどりいの方から提起していただいた資料の中では、先ほどあったプログラムのメイン司会もサブ司会も皆さんピアサポーターの方がやったださっているプログラムが二つあると。また以前ピアサポーターの方だけが入っているプログラムをご紹介しますと思いますが、ピアサポータールーリアンですよね。そういったプログラムも今、できている。その他、外に出ていく活動としては、

ボランティア講座、精神保健福祉ネットワーク連絡会、新人研修での体験発表、また養成講座での体験発表もありますし、今年度大内病院のデイケアが受けてくださったり、ピアサポーターサポートの普及推進連絡会に行ったりとか、そういったようなこともやっております。先ほど西村さんがおっしゃったような長期入院の方ですとか、デイケアの方に関わるような活動はまだできていないところが実際ではあります。

病院の方ではどんな活動を受けられるとか、現在の受け入れ状況ですとか、ピアサポーターの活動の場とこれからの強化も含めてですが、病院側から何かありましたら教えてほしいと思いますがいかがでしょうか。

【久下委員】

大石記念病院でデイケアを担当します久下と申します。いつもお世話になっております。病院では、今デイケアが高齢化していますので、長期入院している若めの方と、地域で暮らす高齢の方について分けてピアサポーターの方に支援していただけるといいのかなと今日の話聞いて思いました。

活動の場についてはそうですね。ふれんどりいさんに間に入っていれば、デイケアのプログラムに入れられるとは思っています。前倒してプログラムを決めるので、早い時期に言っていれば予定を組めるかなとは思っています。よろしいでしょうか。

【森澤部会長】

どれくらいの時期とか、どんなプログラムに入っていだくとピアサポーターの方のお力を発揮できるかなというイメージはございますか。

【久下委員】

デイケアには、お一人暮らしで頑張っている方が結構いますが、デイケアの出席率がだんだん減ってきている人がいます。他科で他

の病院に行くことが多くなってしまっているから、デイケアに通う回数も減り、多分1人でいる時間が長くなっていると思います。何かその辺りで対応ができれば良いと思います。ただピアサポーターの方は年齢が若いと思うので、高齢者にどう対応できるかというところが見えません。工夫しないと高齢者が「大丈夫です。」と言って終わってしまうかもしれません。

【森澤部会長】

ありがとうございます。小杉委員いかがでしょうか。

【小杉委員】

そうですね。精神の障がいがある方で、やはり大事なことはリカバリーしていくというところですかね。障がいをしっかり自分自身で受け止めて、それを前向きに捉えられるようになって自分らしく生活するというのがすごく大事だと思います。

デイケアの中だけでやっている、どうしても医療機関というところもありまして、そこに到達するのがなかなか難しい方などもたくさんいらっしゃって、やはり外の風と言うんですかね、外から回復した方の具体的なお話などを聞かせていただくと、自分自身に当てはめてはっと気付くみたいなことがあります。少し以前にもふれんどりいさんにピアサポーターの派遣をお願いしましたが、やはりコロナの時期だったということと、先ほど西村さんからお話がありましたけど、なかなか派遣できるような方がいなくてすみませんみたいなことがありました。その辺で待っていても仕方ないということもありまして、自分たちの病院の中のデイケアを利用されている方ですか、就労移行とか使っている職員もいましたので、そういった方にお声掛けをして、ピアサポーターサポート活動を院内の中で少しやらせていただいて、おおむね結構反

応はいいんですね。やはりモデルになるといいますか、そういう考え方もあるんだとかです。そういうふうにステップアップできるんだとかって、結構光になってくださるところがありまして。ただやはり中だけでやっている内輪でやっている感が出て閉塞感も出てくるので、ぜひ外の風が入ってくれるともう少し風通しの良い、意見交換がしやすい、良い方向へ流れるんじゃないかなと思ひまして、こういったものが少し形になってくるとうれしいなと思います。ありがとうございます。

【樺沢委員】

東京足立病院の樺沢です。当院では、コロナ前はピアサポーターさんの力をすごくお借りさせていただいていたんですけども、コロナが蔓延してからの方はなかなか外部の方にお越しいただくことが難しい状況になっていて、今でもその現状は変わらないというのが正直なところでは。

特に慢性期の病棟ですと感染をご自身で防ぐことが難しい方が多くいらっしゃる、一度入ってしまうとその病棟全体からも外出ができなくなってしまったり、リハビリのプログラムに出られなくなってしまったりということで、感染が発生するだけでもそれだけで長期入院のリスクがかなり高まってしまうというところが正直なところなので病棟の方に入らせていただくというのはまだ先になってしまうのかなあと感じています。

現状例えばスタッフ向けにピアサポーターさんがどういったことをこうやってくださるのかですか、ピアサポーターさんのお力というのを、スタッフの方に話していただく機会があったりすると良いのかなと感じています。また退院に向けた作業療法士のプログラムなどがありますので、そちらにピアサポーターさんに来ていただいて、また意見ですと

か、地域生活でもご心配やご不安というのが、こういうふうに解消したよというふうなお話をさせていただいたりすると退院に向けた患者様も少し退院への不安を解消した上で、地域の方に戻っていけるのかなと思っています。ですので、先ほども出ていましたが、やはり今、地域での生活を維持していくというところも、かなり力を入れて取り組まれているところだと思うので、そこでピアサポーターさんのお力をお借りして地域生活での困りごとの対処ですとか、地域にはピアサポーターさんしか知らない資源というのもたくさんあると思うので、そういったところを地域ですでに生活されていらっしゃる方に共有していただく機会があるといいかなと思いました。ありがとうございます。

【鈴木委員】

綾瀬病院の鈴木と申します。よろしくお願ひします。病院の中でどういうところということに関しては、正直何も固まっておらずふわっとしてるような状況なので、具体的にイメージするのは難しいですね。一般的に言う活動に参加していただくというようなことは可能性としてはあると思いますけれども、一步踏み込んで、実際にどんなふうにということは現状では想像できないところです。感染の問題もあります。病院の中に入ってくるという意味のピアサポーターさんという他に、その地域でという話も出たと思いますが、個人的にはその地域であまりいろんな活動に参加できていない方ですとか。サービスにもあまり繋がっていないような方に対してサポートしていく。というような活動の方が求められているところにじっくりいくのかなという感じはしていますので、その点についても踏み込んで考えてみていただければありがたいなと思います。

【吉村委員】

大内病院の吉村です。よろしくお願ひします。大内病院の作業療法の方達が、先日入院患者さんたちを、大内病院の中の資源ですけれども、デイケアやB型作業所、グループホーム等に行き、地域で生活している様子を見学したという活動を聞きました。そういった中にピアサポーターの方の話を聞ける機会があったりしたらそれもまたいいのかなと今、聞いて思いました。患者さんたちの退院支援をしていく中で、こちらとしては、何かしらのサービスに繋げていきたいなとか。全く何もサービスを入れないというのは、入院が長い方に関しては心配があるので、こちらからどうですかと提案しても、今まで使ったことがないと、そういったことに対してすごく抵抗があるとかイメージが湧かない方も多いです。実際に使ったとか、使った方が助かったよとかそういった今地域で暮らしている方たちがどうやって長続きして、出来ているかを実際に体験談として聞ける場があると、何か私たちがいくら言うより、すごく浸透するのかな、聞いてもらえるのかなと思うので、いつかそういう場があったらいいのかなとすごく思います。

【森澤部会長】

ありがとうございます。今、病院の方々の皆さんから病院側の視点というところでいろいろなお話を伺いました。視察に行かれた中でもあったと思いますが、幅広い年代の方々への関わりができるようにですとか、回復した方がリカバリーストーリーをしっかりとご自身で整理をして語れるようになり、モデルになっていくというような形の関わり方ですとか。また、スタッフへの認識を広げていただくために、入院患者さんやデイケアに通ってこられる方たちだけではなく、職員向けにそういった認識の確認をしていくのはどうかですとか、いろいろと地域生活維持のための

困りごとへの対処ですとか、そういった皆さんの頑張ってるよという生の声が聞こえると、皆さんがより地域に根ざしやすくなるという声がありました。視察の中にも挙げられた他の自治体でのピアサポーターサポートの講座ですとか、そういったものにも表れているかなと思っております。今、ふれんどりのピアサポーター養成講座の募集をかけていますが、こちら見られた方はいらっしゃいますでしょうか。保健所や病院にも送っています。足立区は3回ぐらいの内容でピアサポーターの養成講座をさせていただいていますが、他のところを見て何か養成講座の違いを具体的に説明お願いできますでしょうか。

【事務局 田中】

養成講座ですが、私たちが行ったところは江戸川区のこまつがわと豊島区のこかげですね。1回目のときにもお話しましたこまつがわさんの方は、養成講座の開催がとにかく多い。12回とか13回とかあります。そして養成講座開催前に、ピアサポーターは何をするのかの説明があり、それを聞いた上で、その養成講座に参加するかどうかを決めることができることが、特徴的だなと思ったところです。養成講座がそのあと12回13回ありまして、その後にもまた実習がございます。こかげさんの方はですね、回数はそれほど多くはございませんが、ピアサポーター募集のパンフレットを毎年こかげの方で作成して、病院や地域の事業所の方にも配布をしております。そして基礎研修と専門研修とフォローアップというところで、少し段階を分けて研修をしているところが特徴かなと思いました。

【森澤部会長】

そういったいろいろ各自自治体も工夫を重ねている中で今後、来年度に関しては周知と視野を広げるため、また強化の検討というところになります。何か先ほど西村委員からも

ピアサポーターの方たちがこれでいいのかな、モヤモヤした気持ちが少しある方もいらっしゃるみたいなのという話がありましたが、何かこんなことあったらいいなとかありますか。ふれんどりのスタッフからは、フォローアップというかピアサポーターの養成講座を受けた後に勉強会が少ないので、講師の方を呼んで勉強会とかできるといいなという話もありましたが、何か皆さんの方から、こんなことあるとやりやすいなとか、こんなことして欲しいなとか、強化に繋がるような、裾野を広げるような、お声が実際ありますか。

【西村委員】

コロナ前の話で言いますと、自分たちで勉強会を立ち上げて、講師の方を呼んで勉強するということがありました。

今は、新しいプログラムを立ち上げたばかりなので、そちらの成果を検証している最中です。新しい講座が成功することで、皆さん何か得るものがあるのではないかなと思われまます。それと、こころの健康フェスティバルでのしゃべり場で司会をやってみるといのも今のメンバーにとっては初めてのことで、そこでの経験も生きてくるのではないかなと。

【森澤部会長】

先ほどの西村委員から出ましたこころの健康フェスティバルのしゃべり場の件は本間係長からお話いただいておりますが、何か補足ありますでしょうか。

【事務局 本間】

今年度、令和8年3月7日ですね。第30回こころの健康フェスティバルで、実行委員会のホール部会がありまして、そこで今年度何しようかと話し合った結果です。実行委員の方から昔やっていたしゃべり場をやってみたいという声が上がりましたので、我々経験したことがないのでどんな感じか分かりませ

んが。何もテーマを決めずにフリーで話し合
って、いろいろ話が飛んだりするとは思いま
すが、それで、精神障がいの方の何か思
いを共有できたらいいなと思って今回はやっ
てみたいと思っています。勝手が分からない
のでピアサポーターさんを活用していくとい
うその流れにも乗ってですね。ピアサポータ
ーの方に司会のサブみたいな形で入ってもら
って一緒に進められていけたらいいなと考
えております。

【森澤部会長】

そういった話が来ましたので、先日ピアサ
ポーターの定例会で、そちらをお伝えしまし
た。今もプログラムの中で司会をしまして、
参加者とかけあいながら、ピアサポーター
の目線で話を聞きながら、やっています。
しゃべり場でも私達と一緒にやっていけるよ
うな場があるといいかなということで話が進
んでいます。

今回このピアサポーターの養成講座が2月
からと先ほどもお伝えし皆さんのところに送
らせていただいて周知をしていますが、なか
なかこの周知も難しい。範囲が限られてしま
っている現状があるんですが、何かこうい
った周知の裾野を広げていくということに
対して皆さんの方からアイデアがあれば、次
年度に繋げていくためにも、伺いたいなと
思っております。

ここからピアサポーターに関することでも
もちろんいいんですし、何かアイデアがあ
りましたら教えていただけたらなと思いま
す。

【秦委員】

事務局の課長でもありますが、委員とい
う立場で質問をしたいと思えます。まず事
業を推進・強化していくというところで、
予算の面での視点も必要かと思うので、
他自治体に視察したなかで、ピアサポータ
ー事業に対して、どういう形で他の自治
体が取り組んでい

るのか、特に予算について教えていただ
きたいと思えます。また、各保健センター
で、この問題を抱えている方の様々なご
相談等に対応している5センターの保健師
がオブザーバーとして参加していますので、
各保健センターでの特徴や、ピアサポータ
ーに対する取り組みや声掛けなりをして
いるのか等を含めてコメントいただけたら
ありがたいと思っております。

【森澤部会長】

まずは予算の面から、田中係長から願
いします。

【事務局田中】

予算につきましては、区の財政状況にも
より少し幅がありますが、だいたいピアサ
ポーターに関するスタッフ2名分ぐらい予
算立っているところが多かったかなと思
います。その他、その活動に関する交通費
、資料作成費等を含めて出しているとい
うところです。

区で把握しているところは、だいたい2
名分ぐらいにつけていますということでは
けれども、委託をしている中では委託先
から必要な経費、これぐらいですと示さ
れた分、細かい部分まではわからないとい
うところもあつたかと思えます。ただ、2
名分の人件費は付いているけれども、実
際に運営している事業者さんの方は、2
名専用でピアサポーター活動ができて
いるわけではなく、他の事業と掛け持
ちしながらやっていて大変というところ
が多かったです。

【森澤部会長】

それでは続きまして各保健センターの
皆さんの方から保健センターでの相談
の方の特徴ですとか、ピアサポーターの
取り組みと、問い合わせの状況ですとか
。何かありましたら教えていただけたら
なと思えます。

【オブザーバー松山】

竹の塚保健センターの保健師の松山
です。

竹の塚保健センターでは区内で1カ所思春期青年期ダイケアをやっております。だいたい18歳位から20歳代前半の若者といいですか、病院に繋がって間もないぐらいの方が常時4～5人参加されています。全区内から来ていただいていますので、それぞれの管轄保健センターの地区担当保健師と連携しながら、また主治医の先生とも連携しながらやっております。そこではやはり医療に繋がってすぐのところがありますので、なかなかピアサポーターの方の活動の場としては難しいのかなと思いましたが。先ほどの病院でのお話を聞いていて個人的に思ったのは、ピアサポーターの活動をするという方は病状も安定をされていて、きちんと主治医の先生もいて通院もきちんとされている、服薬をしている。それで周囲のサポートをちゃんと受け入れてくださっている。その部分でいくと、例えば保健センターにもありますが、区内の家族会ですとかで、例えば自分の子供が治療中断してしまって今どうしようかと困っているとか、なかなか病院に行きたがらなくて引きこもっているとか、そういうお話が家族会の中ではあると思うんですね。竹の塚保健センターでは残念ながら家族会をやっておりませんが。ですので、そういうところでどのようにしてピアサポーターをやるまで病状安定させるために自分が気をつけていることや、病気になられてから今までの自分のいろんな思いとか、こういうときにこういう病状の時にこんな風に家族がしてくれたから自分は頑張れたとか、そんな話をさせていただくと良いのかなと思いましたが。やはりそこに参加されてる家族の方、お父さんお母さん方が多いですけど、ご兄弟がある方もいらっしゃると思いますので、そこで家族としてどういうふうにこの自分の家族を支えていったらいいのかなとモヤモヤしてる部分があると思うので、実際にご病気が

ある方から話をもらうというのはいい機会なんじゃないかなと個人的には思います。以上です。

【森澤部会長】

こんな風にすればもっと人が集まるんじゃないか助言ありますか。

【オブザーバー松山】

なかなか難しいですね。やはり病状も安定されている方、スタートラインに立てる人に講座の案内をしなければならぬと思うんですね。ですので、保健センターで今相談を受けている方は病状が安定してない方が多い。安定されている方はもうそれこそ障がい者雇用で働いていますので。安定している人あなたどうですかと言うのは、主治医なのかなと。保健センターで良さそうな人がいれば、もちろん推薦したいですし、いつも目を光らせています。

【森澤部会長】

実際の部分が聞けてありがたいです。

【オブザーバー沢田】

東部保健センターの沢田と申します。よろしくお願ひします。東部保健センターで私が地区活動をやらせていただいている中では実際にふれんどりのピアサポーターさんがいらっしゃると思います。今こんな活動してるよとかピアサポーター活動の困り事とかもたまにご相談いただくので、どんなふう活動していくと良いかなというのを一緒に考えさせていただいてます。また、東部保健センターでは家族会を実施しています。ふよう会という会です。精神障がいがあればどんな病状の方でもご参加できますという形で開催しており、現在5名程度ご参加いただいています。定例会としては、年に3、4回開催しており、皆さん、親の立場の方とか、先日新規の方がいらっしゃるって、夫に障がいがある方なので、奥様の立場で来てくださったという形でした。

先ほどもお話があったとおり、障がいがあると分かっているけど本当にいつもいつも優しくできない。そんな私を責めてしまうとか。でもどうしていけばいいんだろうってすごく悩んでいらっしゃることもあって、そんなときにピアサポーターさんの方が、こんな視点もあるよという新しい風を入れてくださるといのも家族会にとってもいいのかなって思いながら、こちらのお話も聞かせていただいていた。私たちのところは、家族会もそんなに人数が集まらず、4～5名程度なのですごくこじんまりさせてもらってるんですけど。どんな風に窓口でそれも案内していけばいいかというときに、東部保健センターは小さく、ラックにチラシを入れても埋もれてしまうので、カウンターにふよう会のチラシを貼り出していました。今回来てくださった新規の方は、たまたま休日診療のときにそのチラシが目について、開庁していない時間、日曜日に休日診療にたまたま来て、そこで家族会を知り問い合わせをくださった方だったので、今までどこにも繋がってない、相談歴もない方が来てくださった。それは今年、貼りだし始めたところだったので、貼ってて良かったと思ったことでした。いろいろな方の目に留まるといのが、ピアサポーターの養成講座や家族会の人集めという意味で大切なかなと思っていた次第です。

【森澤部会長】

そうですね。いろいろな方の目に止まるためにいろいろなツールがあるので、そこら辺も工夫をしていかないといけないところかなとは思っていますね。はい。続きましてよろしく願いいたします

【オブザーバー久野】

中央本町地域・保健総合支援課地域保健係久野と申します。よろしく願いいたします。ピアサポーターを増やすところと活躍の場と

いうところに需要がマッチするかなというところで、地域活動ですとか保健センターの状況からいくつかお話させていただければと思います。ピアサポーターさんを増やすために、こちらでできるかということでは、先ほども出ていたように、ピアサポーターさんになれる方はやはり病状が安定している方というところで、そうすると保健師としてお会いするのが先ほど出ていた就労している人、例えば就労定着支援の更新とかで来るような人をお忙しいかなと思いつつアプローチするとしたら、実際に体験談も含めてお話しいただくといのかかなと思うところもあります。あとはどこにニーズがあるかなというところで、例えば、精神の疾患を発症して間もないご家族から、今後どうしていったらいいんだろうという相談を受けることなどもあります。なかなか地域でサービスに繋がってないような方に、地域でこういう方もいることをお伝えすることで今後の見通しのきっかけになるのかなと思っていました。また、地域保健係でおりづる会というネットワーク連絡会でいろいろな機関がお話するような会も開催しておりまして、今年度は地域に移行して行くためにいうところグループホームや地域移行支援の話をテーマとしました。その中でピアサポーターさんの方から実際というところで地域に求めることですか、支援者に求めることというところの話聞く機会としても活用方法も一つなのかなと思いました。

【森澤部会長】

いろいろなニーズですとかネットワークを活用していくといいだろうというお声がありました。続きましてよろしくおねがいします。

【オブザーバー堀内】

江北保健センターの堀内です。江北保健センターは今年の4月に新しい場所、すこやかプラザあだちに移転して、健康チェック機器

が導入されてフロアの1階に設置されています。あとは窓口として健康コンシェルジュという健康の相談の窓口があり、そこで地区の方のみならず、足立区全体の一時的な相談を受け付けている状況が他センターと違うところかと思えます。

それで数を増やすためには先ほどもお話がありましたように、保健センターに相談に来られる方というのはまだ病状も安定してない方が多いので、なかなかご案内できないかなというところがあるので少し安定している方々に届く工夫が必要かと思えます。活躍の場としては江北保健センターにも、地域家族会があって、定例で集まるのが3、4回で、そのうち1回を地域の方向けの講演会にしてあります。今年はその中で、親亡き後のお金のことということをやっているの、家族会の中でも、親亡き後のことが皆さん不安で私が死んじゃったらどうしようって話を毎回しているみたいな感じです。もしその家族会の中で、今1人で暮らしているピアサポーターの方にお話していただけたら、それはすごく心強いのではないかと感じました。

【オブザーバー矢作】

千住保健センターの矢作と申します。ピアサポーターについては、ちょうど講座のチラシも送っていただいたんですけども、先月も私のところにピアサポーターになりたいと相談がありました。実は昨日も、やっぱりサポーターになりたいですという方が来て、立て続けにお二人の方がお申し込みをしてくださいました。ピアサポーターの方なので、お仕事の経験がある方は、自分のそういう活動がお仕事を目指す方にとって少しでも役に立てればということですか、とにかく寄り添って話を聞きたいなという人もいました。そういうデイケアなどにきちんと通えるような病状としてはとても落ち着いているお二人で

した。ピアサポーターがなかなか増えないということでしたが、ここ1～2か月で千住の方からは何名か申し込みがありました。また当センターの活動ですが、地域の事業者や作業所、訪問看護、病院の方等とネットワーク連絡会を年2回やっております。結構事例検討が主になっていたところもありますが、その中で少しピアサポーターの話ができたり、ピアサポーターの方にお話をさせていただいたりとか、また来年度の話になってしましますが、そのような場で少し地域の方たちと話ができてもいいのかなと感じました。

【森澤部会長】

ありがとうございます。ちなみにピアサポーターになりたいという方は2人いらっしゃったところでは何かピアサポーターの養成講座をどこかでキャッチしておられたという感じでしょうか

【オブザーバー矢作】

お一人は夏ぐらいから、実はピアサポーターになりたいという電話を、精神保健係を通じて相談があった方です。もう一人の昨日来た方は草加から転入してきた方ですが、落ち着いていらしたので話の中でちらっとピアサポーターの話をしたら、実はピアサポーターになりたいんですと、そういう場を探していたんですとご本人がおっしゃいました。埼玉県でのピアサポーターの募集に申し込んだけど結局落ちてしまったということでこれから東京都の方でも活躍したいけど、ひとまず足立区に転入したので、足立区でまずは勉強してそこから活動したいというとても素敵な女性でした。

【森澤部会長】

ありがとうございます。いろいろキャッチをしながら、またピアサポーター活動に関心を持たれている方がやはりいらっしゃる。実際に地域に住まわれている方でピアサポーター

活動したい方がいるというのが、今お話伺ってわかりました。ありがとうございます。

今、活動の場として家族会というものが結構お声をいただきましたけれど、家族会の方にピアサポーターの方に入っていて、お話ししていただくというアイデアがありましたけどいかがでしょうか。

【片桐委員】

家族会の片桐です。それはとても良いことだと思うし希望していることだと思います。今日も来るときに家族会の会長さんと少しお話ししましたが、話したくても話せないこともあるし、家族会に出席しているお母さん方の中にはお子さんが引きこもって、出てこれない方もいるので、ピアサポーターの前に引きこもった方をどうすればいいか、家に訪問してお話やサポートはできないのか。どうすればいいかという方法もわからないんですけど。親とか兄弟が家族会に入って悩みを話している。引きこもっている方を早くケアとか作業所に繋げるにはどうしたらいいか、お母さん方はよく見学会などに行ったりしてるけど、本人はなかなか出てこれないのです。結局ピアサポーターが来てくれて、家族会でお話聞いても、親よりも本人が聴く方がいいんじゃないかなと思います。それから、やはり一番問題なのはサービスに繋がっていない方が何年も家にいることの限界もあります。先ほどお話あった親亡き後ということは家族会でも何度も講座を受けてるんですけど、回答が見つからなくて、本当心配事ばかりです。ピアサポーターさんにメンバーさん達が触れることはすごくいいことだと思います。家族会に来ていただいて親に希望を与えてもらうのはありがたい話です。以上です。

【森澤部会長】

家族会との関わりの中でご家族に対する関わりもあれば、家に引きこもっている当事者

への働きかけがアウトリーチ的にできるとか、そういったことが両方あるといいなというような、そういった支援体制がとられていくか。そこがしっかりとされていくと、親亡き後の心配はなかなかなくなるには思いますが、少し何か支援体制が整ったなと感じられ、少しだけでも心配が減っていくようなことができるのかなと改めて思いました。家族会とご本人への働きかけというところでご意見いただいております。

【秦委員】

自分の先ほどの説明の確認になりますが、予算の方は、正職員1名から2名というところなのでしょうか。他の業務も兼務しているが1から2名分の職員配置として事業の予算を立て、使っているということでの確認でよろしいでしょうか。あと、もう一つの質問ですが、ピアサポータースタッフを除いた部分のピアサポーターについて、多分、個人間でのレベル感があると思いますが、恐らく他の区では段階を踏んでやってもらうことを決めていると思うので、そこも含めて、もう一度ご説明いただければと思います。

【事務局 田中】

他区のピアサポーターさんについて視察をして分かったことが、何回もミーティングをしていることです。そして、外部から依頼があった場合に、例えば病院から訪問に来てほしいとか、小学校からちょっと来てほしいと言われたときに、そのミーティングで、こんな依頼があるけれども誰が行くかと、みんなで決めていける人が行く。そしてスタッフの方もこの依頼だったらこの方が行けるかなと人選をしていると言うと語弊がありますが、負担にならないような方を選んでやっている。そして、やったことをミーティングで振り返りをして、決してやりっ放しにはせずサポートするというところは、とても大事だなと思

いました。レベル感は、例えば病院に訪問に行くときに、初めはその事業所のスタッフの方と一緒に行くけれども、何回か通っているうちに病院の看護師さんと慣れると、お一人で行くこともできるということでした。

【秦委員】

恐らくピアサポーターというイメージが、リカバリーストーリーを御自身で発言できたり、企業さん相手に講演できたりというような方だけをイメージされてしまうのも、どうかかなと思っています。保健センターの話にもありましたが、だいぶ色々なことができる経験値やスキルを持った方というイメージを持ちがちだと思うので、様々なレベルの方が集まって、お互い話をしながら気づきを見つけて、だんだんと成長していくとか。段階的なものがあると思うので、そのピアサポーター云々というところのイメージをもう少し裾野を広げる意味でもハードルを下げていかないと推薦云々も絞られてしまうのかなと思います。まず興味のある方に参加いただいてその中で自分自信にあった活動を地域でやっていくというところを考え、見つけてもらうということが必要だと思います。足立区として、そういう活動でまずは今、当事者の方からも話がありましたが、現状、人数が少ないところも含めてカバーするには、まずは、人数を増やしていく視点も必要だと思いますがいかがでしょうか。

【森澤部会長】

そうですね、今のふれんどりのピアサポーターの養成講座はどちらかというと、もしよろしければ皆さんやりたい方はどうぞというスタイル。やはり病状に波がある方は難しいですけど、ある程度落ち着いていればというところなんだと思います。そこから活動していて今のプログラム担当でやって行きたいとか、この活動以外にももっと発展性を持

たせたいなんていう方が、出てくるのかなと思います。その中でまずは、ピアサポーター養成講座3回は本当に初歩の初歩、入門編みたいな感じのところなのかなという認識はピアサポーターを担当している職員とも話をすることで、その後に中身をもう少し充実させていくとより皆さんのその後の力もついて来る形にと考えていたりするところではありますが、回答になってますでしょうか。

【秦委員】

そうすると、ふれんどりの方ではある程度門戸を広げて募集をかけているという前提であるならば、やはり周知の方法が少し足りないのかなと思います。保健センターや関係団体の方も含めて、どのようにすれば対象になり得る方にピアサポーターの養成講座を知ることができるのかというところを検討していただきたいと思います。

【森澤部会長】

そうですね、どんな活動をしているのかあまりよく見えないというふうな声もいただきますので、やはりそういったところもふれんどりのピアサポーター養成講座を担当している職員と話をしながら、そういった周知の方法、どんなことをやるのかがもう少しわかる方法、例えば説明会を他の自治体のように先にしてから養成講座に募集をするなどもやっていけるのかなと考えます。

それでは地域で長年皆さんの支援をしている内田委員、ピアサポーターの活動がより活発になって、周知裾野が広がっていくために、何かグループホームの視点ですとか、精神保健に長年携わっている経験から、何かいいアイデアですとかありますでしょうか。

【内田委員】

クララの内田です。よろしくお願ひします。良いアイデアというのはあまりないのですが、このピアサポーターさんってすごく重要な役

割をされているなというのとは日々感じていて、特にグループホームを退去した方も一人暮らしをした後にやはり寂しかったり不安になる時間があったりとか、急に思い詰めてしまうこともあります。ピアサポーターさんにアドバイスをいただけたら、そこからまた前に進めるという方がたくさんいらっしゃいます。大きなというか先ほどお話があったような、何か講演をするような感じのピアサポーターさんというイメージではなく、継続して来ていただけるような、なかなか難しいかもしれませんが、有償ボランティアでも来ていただきたいと思うくらいピアサポーターさんの存在は大きいと思っています。勿論有償ボランティアも簡単な事ではなく諸々検討し整えなくてはいけない課題や問題点はあると思いますが、1つの方法として実現出来たらやりがいにもつながり素敵だなと思います。

【森澤部会長】

そうですね。そういった活動費ですとかがしっかり確保されて、皆さんのやりがいですとかそういったものに繋がっていく環境が整えていくと良いと思います。ありがとうございます。続きまして山本委員からでしょうか。

【山本委員】

基幹地域包括支援センターの山本と申します。私は、普段働いているのが高齢者の相談窓口セクションの包括支援センターを後方支援する役割を持っている基幹包括センターに勤務しています。高齢者のところは少し置いといて、皆さんからいろいろご意見をお聞きする中でですね、やはりその裾野を広げていくためにどうしていったらいいのかということって、区としてピアサポーターの認知度を測るアンケートとか、そういう何かピアサポートを知ってますかみたいな取り組みというのも、一般の区民の方向けに、何かしたこ

とがもしあるのであれば、どれぐらいの認知度があるのかなというのを知りたいなというのが一つと、その一般の方に、例えばその辺の道を歩いている足立区民の方にピアサポーター知ってますかって、街頭インタビューみたいな形でしたときに知ってるよという答えてくれるかというのはおそらくかなり低いと思います。

先ほど、毎年3月にイベントがありますというところでは、本当にまず知ってもらう、裾野を広げるために、部会としてブースを設けるとか、精神保健係としてブースを一つもらって、何かPRをしたいものをそこで発信していくみたいなどころからスタートするのかなと。こころの健康フェスティバルは、結構その当事者の方々とか、作業所とかスタッフの方が結構いらっしゃると思う。一般の方も結構いらっしゃるイベントだったりと思うので、そういったところから裾野を広げることも一つ方法かな。あと、実際そのピアサポーターを今募集して養成していくとなったときに、先ほどいろんなこの精神障がいのある方の段階的なところのどこにターゲットを絞るかを検討していくべきなのかなと思いました。本当に病状が安定して、一般就労なり障がい者雇用で日中働いている方はなかなかそういった時間取れない方がいらっしゃるし、もしかしたらその就労のA型B型でもなかなかそういった時間的に活動に至れないという人もいます。そうではない、安定はしているけどまだ継続的な就労や活動に繋がってないような人たちがどれぐらいで、そういったところにどうアプローチしていいのかみたいなことも検討するようにしていくと、サポーター自体を知ってもらうというのは不特定多数に広くやるし、ピアサポートを作る取り組みについては、逆にターゲットを絞ってそこにアプローチするみたいな、ち

よっと両側面でそのやり方を検討していくというのが一つあるのかなと思います。

【森澤部会長】

ちなみに一般区民向けの認知度の調査とかというのはしたことはありますか。

【事務局 田中】

認知度について調査をしたことはございません。実はワーキングの中でもその認知度について調査をするといいかどうか、こころの健康フェスティバルの時にアンケートを取ってみるかという話は出たんですけども、こころの健康フェスティバルが、精神障がい者の方のフェスティバルですので割と精神を知っている方々が集まっているというところと、今はピアサポーター活動が全然周知されていない状況なので、もう少しそのピアサポーター活動を行って周知されて目に見える形になってから何か調査をした方がいいのかなとかいろいろ意見が出て結局どうするというのは決まっておりませんが、ワーキングではそんな話が出ています。

【森澤部会長】

ありがとうございます。続きまして、増田委員いかがでしょうか。

【増田委員】

感想になってしまうんですが2点お伝えさせていただきます。まず1点目としてピアサポーターに関しての掘り起こしといったものが必要なのではないかとといったようなところと、2点目としては、そのピアサポーターからの情報共有といったものが必要なのではないかとというふうに思った次第です。

まず一点目の掘り起こしといった点で言いますと、各保健センターからの話にもありましたが、なかなかそのピアサポーターとして、適任かどうか判断が難しいといったような話も出たかと思います。そういった点で言えば、医療機関の方から、主治医意見書じゃないで

すが、病状が安定しているし、ピアサポーターとして良いのではないかとといったような推薦や、直接あしすとの方に紹介していただくみたいな形がとれると良いのかなというふうに思った次第です。2点目のピアサポーターの情報共有ということですが、本当に少ないピアサポーターの方に活躍していただくためにも本人の同意といったものが必要かと思いますが、ピアサポーターお一人おひとり、生活環境も違いますし、その回復してきた過程も違うかと思っています。そういった中で、得意分野というのがあると思うんですね。そういった情報を共有した上で、区全域でそのような得意分野に関してお願いして、活動していただく。そういったことができれば有効にピアサポーターに活動していただけることに繋がるかなと思った次第です。

片桐委員の中の話もありましたが、引きこもりに関して言いますと、もしかしてそのピアサポーターの中に、ひきこもりから回復された方等がいた場合、ペアレントトレーニングではありませんが、当事者としては親にこういったことをして欲しい、またこういったことはして欲しくないということを家族会でしていただくことも有効ではないかなと思った次第です。

【森澤部会長】

ありがとうございます。松岡委員、今までの時間で、ピアサポーターのこれからの活動の検討をしている中で、周知するためにどうしていったらいいかなというご意見を皆さんに伺っているんですがいかがでしょうか。

【松岡委員】

等潤病院の松岡でございます。遅くなりまして申し訳ありません。ピアサポーターということですが、当院は精神科を標榜しておりますので、なかなかやはり職員含めて接する機会がそんなに多いわけでは無いですが、

12月だけでも精神科を併科されていて受診中断してしまったのが4件ありました。1人は暴力行為でもともとかかりつけが区内の病院だったので翌日転院、もう1人はリストカットを入院中にされて、また翌日転院みたいな形でそういったことが4件ありました。私達も、こちらの治療も継続したいのですが、継続ができなくて歯がゆいところもあります。今回ピアサポーターということがテーマということですが、医療連携をさせていただいている大きな病院さんの中には、空いているスペースを開放して、そちらは困窮支援の医療機関ですのでNPO法人のホームレスを支援しているところの作品を売っていただいたりとかスペースを開放したりして、より地域に溶け込もうとしているような病院もあるので、私たち等潤病院も私達からもやっぱり働きかけとか、解放が必要かなと思う機会がございました。ピアサポーターさんもいろいろな段階の方がいらっしゃるというお話がありましたけれども、もしそういう作品だとか、ご自身たちの表現活動ということがもしできないのであれば、例えばそういった私達のような病院の開いているスペースなんかでこう表現活動なんかをしていただけたら、私たち職員も、どういうお気持ちで過ごしてこられたかとか、そういったことを知る機会も増えるかと思えますし、私たちは社会医療法人で地域の皆様に医療提供していくというのが理念でございますので、地域の皆様にもそういうピアサポーターの方々の活動を知っていただく機会になるんじゃないかと思いました。等潤病院は東京足立病院さんからパンを販売しに来ていただいて、移動販売ですね。私もこちらに参加させていただいて精神科との連携をぜひさせていただきたいと思っていたところ、院長同士でご縁があったということもありまして、東京足立病院さんからお声がけをいた

だいて、院内でB型事業所さんの移動販売を等潤病院の介護施設の方で定期的にしていただいています。非常に通所者の方にも大好評で、本当に良かったなと思っております。そのように私達も、通所者に当たる方ですよ。精神科通所者に当たる方が、社会活動して下さっているのにすごく勇気をいただきますし、利用者の方々もとても喜んでくださっていますので、引き続き、精神科との連携も深めていきたいなと思っております。

【森澤部会長】

ありがとうございます。どうしてもピアサポーターの活躍の場を精神の方の病院だけに限定しがちになってしまうんですけど、そういった地域の病院に幅広く表現活動ですとかいろいろな部分で交流ができると、より理解啓蒙啓発にもなりますし、皆さんの理解も深めていっていただけるのかなと思いました。

西村委員、今日たくさんアイデアが出ましたね。この後、こころの健康フェスティバルもありますし、しゃべり場でピアサポーターの方も参加していただきます。ふれんどりいの方でも持ち帰らせていただいて、ピアサポーターってこんなことやってますよという紙ベースで何か配るとか、何かそういったことも展開できると。いかがでしょうか。

【西村委員】

そうですね。こころの健康フェスティバルみたいに精神医療について関心がある方や当事者である方にもっとピアサポーターの活動を直に知ってもらうことはすごく大事なことで、例えば、今ピアサポータールーリアンという活動をしておりまして、数名の人とピアサポーターと一対一で話ができるという機会、主にこれは傾聴することが目的の活動なんです。ここ以外の場で傾聴してくれるところがまずないとか、話をしても、自分が無口になって周りだけが盛り上がりしてしまう

ことが多いんですけども。そういったことがなくなるような活動をやっている最中です。こころの健康フェスティバルでもしゃべり場でも他ではいけないことで、当事者の方に聞いてもらいたいとか、そういった気持ちを当事者が話し合う機会を得られたら良いことだと思います。それから、ピアサポーターのことで以前家族会の方に言われて気がついたことが一つ。どこに行ったらそのピアサポーターの方に会えるんだと問われた時に、ふれんどりいだけではちょっと手が回らないとか地域的なことがありますし、できれば、地域活動支援センターが足立区に7か所か8か所くらいあって、そこにピアサポーターが常駐しているとか。そのようになってくれればいいなと思っております。地域活動支援センターでなくても保健センターでもそうなんです。そういうところに、ピアサポーターあるいは、ピアサポーターが行っているような傾聴だとか。例えば引きこもりの子供について相談したいっていった時にピアサポーターに同席できる体制ができるといいなと思いました。

【森澤部会長】

活動の強化は、今回しゃべり場を利用しながら行っていき、皆さんに周知をしていながら、いろいろな活動を続けられるように、発展させられるようにピアサポーターの皆さんにもいろいろな勉強の機会を設けたり、いろいろ強化をしたり裾野を広げたりとやることはたくさんありますけれど、今日皆さんからいただいた意見を基にワーキングに持ち帰らせていただいて、より丁寧な活動が、ピアサポーターの強化、にも包括に繋がっていくと良いと感じております。ここまです何か皆さんからご意見や情報提供等ありますか。

【山本委員】

基幹包括支援センターの山本です。少し情報提供というか、先ほどもこころの健康フェ

スティバルが年明け3月にありますということで、私の基幹包括支援センターが所属している組織は社会福祉協議会で、社協の方でもブースを設けています。こころの健康フェスティバルは毎年成年後見制度を周知する目的でブースを設けているところですが、先ほど沢山の方から親亡き後の問題というところで、自立支援協議会の中でも権利擁護部会が成年後見制度については、テーマとして話し合っているところかと思えます。専門的な相談はできないまでも入り口のお話とかは、そのブースでもできるような体制で開いておりますので、もしご興味ある方がいらっしゃったら、社協ブースまでお越しいただけると良いかなと思いますので、よろしくお願ひします。

【森澤部会長】

ありがとうございます。その他はよろしいでしょうか。

【久下委員】

大石記念病院の久下です。裾野を広げるということを強化ということで、その中で今5人くらいピアサポーターさんがいらっしゃるということであれば、その方がそれぞれ住んでいるところの地域の作業所、グループホーム、地域活動支援センターとかを紹介するようなものが、大分前に足立区であったと思います。グループホームと作業所の紹介みたいな。それをピアサポーターさんにやっていたら、ピアサポーターさんが取材したものを載せると良いと思います。作業所にはとても熱心にやっている方がいらっしゃるので、ピアサポーターになったら良いと思う人もいますが、ご本人の了承を得られない時があります。こころの健康フェスティバルでピアサポーターさんがそれを発表するようなブースが増えればピアサポーターになる方も増えるのではないかなと思いました。よろしくお願ひします。

【森澤部会長】

そうですね。いろいろな活動が広がっていくといいなと思います。

【小杉委員】

今日はありがとうございました。ピアサポーターについていろいろワーキングの中でまとめていただいていい話だったなと思う反面、精神医療部会という点で考えますと、ピアサポーター以外のテーマもしっかり取り扱った方が良いのではと今お話を聞いて感じました。ご意見の中でもやはり支援が途切れてしまっているケースが困っているとか、支援に繋がらないケースをどうしたらいいんだろうとか。家族会の話なども聞くと、精神医療部会であれば、テーマをもう少し幅広い内容にした方がいいのかなというふうに感じました。今日はピアサポーターさんの話を中心に展開していくワーキングとしてはこれからも継続していただけると良いと思いますが、精神医療部会としてはやはり精神医療という部分もありますので、そのようなところもしっかりフォーカスを当てた議題の方が適切だと思います。最初に増田所長さんの方からいただきましたけれども、退院後の生活支援の部分ですとか、再入院率の問題とかも結構問題ではないかなと思いますので、そういったことにもしっかりフォーカスされて、地域課題を抽出して課題に向けて対策を練っていくということが必要ではないかと感じました。

【森澤部会長】

そうですね。にも包括を一生懸命進めていこうとしながら、ピアサポーターのところは、今年度はフォーカスしてやっていたが、幅広い展開をしていく必要があるということでご意見いただきました。他は何かございますか。大丈夫でしょうか。

皆さん長い時間闊達なご意見いただいて少し時間が押してしまいましたが、ありがとう

ございました。以上でよろしいでしょうか。本日は多くの有意義なご意見をいただきました。誠にありがとうございます。これにて終了とさせていただきます。

最後に本日の部会の検討内容につきましては、地域支援協議会本会へ報告することになっております。その報告書の取りまとめについては、私と事務局で進めさせていただきますので、皆様ご了承ください。それでは事務局へマイクをお返しいたします。

【事務局 本間】

森澤部会長、ありがとうございました。

最後に、事務局より事務連絡をいたします。

来年度は今年度と同様、第1回を7月、第2回を12月に予定しております。皆様、ご出席いただくようお願いいたします。

なお、本日の議事録について、案が出来上がりましたら、皆様に送付いたしますので、内容のご確認をお願いいたします。

私からは以上となります。最後に皆様から連絡事項等、ございますでしょうか。

無いようですので、それでは、以上を持ちまして、足立区地域自立支援協議会 第2回精神医療部会を終了いたします。

寒い日が続きますが、皆様くれぐれもご自愛ください。

本日はご出席いただきありがとうございました。